

【米国】

航空業界の 2020 年の通期予測と 2021 年の見通しについて—IATA 年次総会報告より—

高木 大介 ワシントン国際問題研究所研究員

1. はじめに

新型コロナウイルス (COVID-19) が猛威を振るった 2020 年も残りあとわずかとなったが、COVID-19 の勢いは衰えるどころか、世界各地で「第三波」となって医療現場を逼迫させ、経済の再開を停滞させている。航空業界も非常に苦しい戦いを強いられている中、国際航空運送協会 (IATA) は、11 月 23 日から 25 日に第 76 回年次総会を開催し、その中で航空業界の 2020 年の通期予測と 2021 年の見通しを発表した。IATA はその見通しの中で、航空業界の業績は 2021 年にかけて向上するものの、大きな損失が依然として続く見込んでいる。本稿では、今回の IATA の発表を通じて、航空業界の直近の動向を概括することとする。

IATA は、2021 年の後半にも改善が見られると予測する。積極的なコスト削減が、検査やワクチンの広範な配布による国境再開に伴う需要増と相まって、以前の予測よりも早い 2021 年の第 4 四半期に業界の現金消費がプラスになると見込んでいる (図 1 参照)。一方で IATA の事務局長兼 CEO である Alexandre de Juniac 氏は、「この危機は壊滅的で容赦ないものだ。航空会社はコストを 45.8%削減したが、収益は 60.9%減少している。その結果、航空会社は 2020 年に運んだ旅客 1 人につき 66 ドルを失い、合計で 1,185 億ドルの純損失が発生するだろう。この損失は 2021 年に 800 億ドルも大幅に削減されると見込んでいるが、来年の 387 億ドルの損失の見通しは、喜ばしいものではない。人々が再び飛ぶことができるように、自主隔離なしで安全に国境を再開する必要がある。また、航空会社は少なくとも 2021 年の第 4 四半期まで現金を流出させると予想されており、待ったなしの状況だ」と述べている。

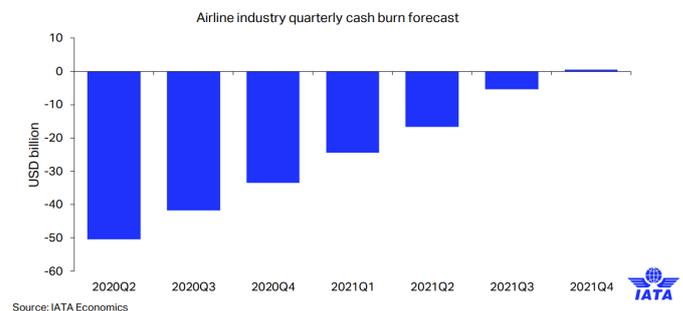


図 1 航空業界の四半期毎の現金消費の見通し

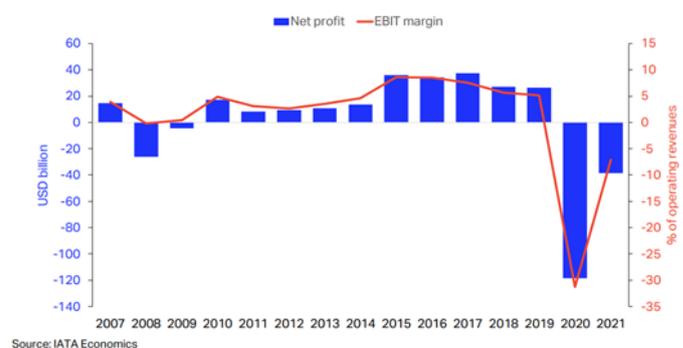


図 2 航空業界の総純利益 (損失) の推移

2. 2020 年の通期予測

COVID-19 危機は 2020 年、航空業界にその存続を脅かすほどに牙をむいた。IATA は、2020 年の航空業界の純損失を 1,185 億ドルと見込んだが (図 2 参照)、これは 6 月時点の予測である 843 億ドルよりも悪化した数字となっている。5,000 億ドルの収益減 (2019 年の 8,380 億ドルから 3,280 億ドルへの減少) に直面して、航空会社はコストを 3,650 億ドル削減 (2019 年の 7,950 億ドルから 2020 年の 4,300 億ドル) し

た。この事態に直面した de Juniac 氏は、「歴史書は 2020 年を、航空業界にとって最悪の会計年度として記すだろう。航空会社は 2020 年にかけて 1 日平均 10 億ドルの経費を削減し、それでも前例のない損失を積み上げていった。政府による 1,730 億ドルの財政支援がなかったら、大規模な破産が起こっただろう」と述べている。

旅客事業の主要な指標を見ると、以下のとおり全てマイナスを記録している。

- ・旅客数は 18 億人に急落すると予想される（2019 年の 45 億人の旅客から 60.5%減）。これは、業界が 2003 年に輸送した数とほぼ同じ。
- ・旅客収入は、2019 年の 6,120 億ドルの 3 分の 1 未満である 1,910 億ドルに減少すると予想される。これは主に、旅客需要の 66%減によるもの。国際線市場は、需要が 75%減少し、大きな打撃を受けた。主に中国とロシアの回復に後押しされた国内線市場は、パフォーマンスが向上し、2020 年末には 2019 年の水準を 49%下回るまでには回復すると予想されている。
- ・旅客イールドは 2019 年に比べて 8%減少すると予想され、旅客ロードファクターは 2019 年に記録した 82.5%から 65.5%に減少すると予想されるが、これは 1993 年の水準と同等である。

貨物事業の指標を見ると旅客よりもパフォーマンスが向上しているが、2019 年と比較すると依然として低下している。

- ・2020 年は 5,420 万トンに上ることが見込まれるが、2019 年の 6,130 万トンからは減少となる。
- ・貨物収入は、2019 年の 1,024 億ドルから 2020 年には 1,177 億ドルに増加し、輸送量の傾向とは逆行する。貨物の重要なベリ容量を奪った旅客需要の急激な減少 (-24%) により、全体の容量は 45%減少したものの、2020 年のイールドは 30%上昇した。

この状況に de Juniac は、「貨物事業は旅客事業よりも優れた業績を上げている。しかし、旅客収入の減少を補うことはできなかった。しかし、貨物収入は航空会社の収入のかなり大きな部分を占め、航空会社がその骨格となる国際ネットワークを維持することを可能にしている」と語った。なお、2019 年には貨物が航空会社の収益の 12%を占めていたが、2020 年には 36%に拡大すると IATA は予想している。

3. 2021 年の見通し

IATA は、2021 年の航空業界の純損失を 387 億ドルと見込んでいる（6 月時点の予測である 158 億ドルよりも悪化）（図 2 参照）。歴史的に深刻な損失に違いないが、航空会社の財務実績は 2021 年に大幅に改善すると IATA は予想する。IATA によれば、2021 年半ばまでに検査やワクチンの広範な配布を通じて国境がいくらか開かれると仮定すると、全体的な収益は 4,590 億ドルに増加すると予想される。これは、2020 年からは 1,310 億ドルの改善となるが、依然 2019 年に達成した 8,380 億ドルを 45%下回っている。コストは 610 億ドルの増加に留まることから、全体的な財務パフォーマンスは向上すると予想される。ただし、航空会社は、輸送する旅客 1 人につき 13.78 ドルを失うこととなる。2021 年の終わりまでに状況は改善すると IATA は見ているが、来年の前半はまだ非常に挑戦的な時期となると予想する。

旅客数は 2021 年には 28 億人に増加すると予想されている。これは、2020 年よりも 10 億人多くなるが、2019 年の実績とはまだ 17 億人の乖離がある。旅客イールドは横ばいで、ロードファクターは 72.7%に向上すると予想される。2020 年に予想される 65.5%からは改善するが、2019 年に達成した 82.5%ははるかに下回る。

貨物面は引き続き好調に推移することが見込まれる。ビジネスの信頼性の向上と、ワクチンの流通において航空貨物が果たすべき重要な役割により、貨物量は 6,120 万トンに増加すると予想される。2020 年の 5,420 万トンからは増加し、2019 年の 6,130 万トンにはほぼ匹敵する。時間と温度に敏感なワクチンのような貨物の割合が高くなることと相まって、旅客サービスに伴うベリ容量がすぐには戻ってこないことを勘案すると、イールドがさらに 5%増加することとなる。IATA は、これが過去最高の 1,398 億ドルに成長すると予想される貨物収入の力強い業績に貢献すると予想している。

4. 回復への挑戦

上記のように、航空業界では 2020 年と比較して 2021 年はパフォーマンスが向上すると見られるが、IATA は回復への道りは長く困難であると予想しており、国内線市場は国際線運航よりも早く回復するものの、旅客数は早くても 2024 年まで 2019 年のレベルに戻らないと予想している。IATA は、以下の重要な課題には緊急の注意が必要と見て、以下のとおり見解を述べている。

債務水準と財政支援：航空会社は政府からの財政的生命維持により生き長らえている。2020年にさまざまな種類の政府による1,730億ドルの支援を受けた後でも、航空会社は中央値でわずか8.5か月しか生き残ることができない現金しか持ち合わせていない(図3参照)。業界にとって危機的な冬の時期に入ると、多くの会社は更に寿命が縮む恐れがある。これは、平時でも需要が弱いことを特徴としている。危機のピークからキャッシュ消費は減少したが、2021年の第4四半期に業界のキャッシュがプラスに転じる前に、航空会社は2021年上半年に月平均68億ドルを消費すると予想されている。

「この危機の経済的損害は深刻だ。政府の支援により、航空会社は現時点まで存続している。危機は誰もが予想していたよりも長く続いているので、もっと多くのことが必要になるだろう。そしてそれは、6,510億ドルに膨れ上がったすでに高額となった債務負担を増加させない形で起きなければならない。航空会社を回復に導くことは、政府が行うことができる最も重要な投資の1つである。これにより、雇用が救われ、世界のGDPの10%を占める旅行・観光業の回復が始まる」と de Juniac氏は述べている。

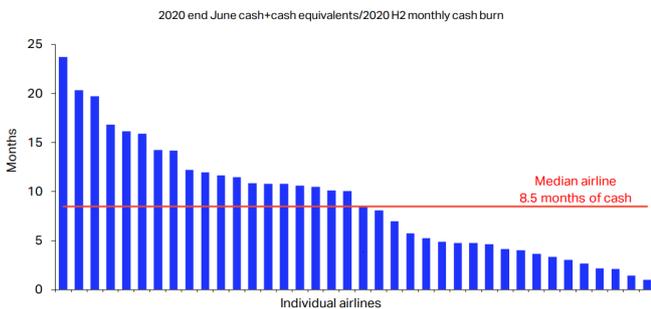


図3 航空会社の現金保有状況(6月末時点の保有現金を2020年下半年の月当たり現金消費額で除したもの)

国境閉鎖/自主隔離：業界の回復を妨げる最大の要因は、旅行の効果的な復活を妨げる旅行制限と自主隔離措置である。最も緊急かつ重要な解決策は、体系的なCOVID-19検査を使用

して国境を安全に再開することだ。長期的には、COVID-19ワクチンの接種が広く利用できるようになると、検査や制限なしに国境を開いたままにすることができるが、ワクチンが利用可能となるまでのタイムラインは不確実だ。

「体系的な検査により、旅行を安全に再開することができる。航空業界は効率的なワクチン配布の準備を進めている。しかし、検査はエアトラベルを有意義に再開するための即時的な解決策だ。エアトラベルの急落により旅行・観光業だけで4,600万人の雇用が危険にさらされているため、手元にあるソリューションで迅速に行動する必要がある。安全に作業を行うことができる、高速で正確かつ拡張可能な検査がある。航空会社は準備ができています。何百万もの人々の生活は、政府や公衆衛生当局の手に委ねられている。政府は、それを維持するために数十億ドルを投資したとき、実行可能な航空輸送部門の重要性を理解していた。今では、航空会社に安全にビジネスを行う手段を提供することで、これらの投資を保護する必要がある」と de Juniac氏は述べている。

5. おわりに

以上のとおり、IATAは2021年の航空業界は回復傾向に転じると予測しているが、引き続き年間を通じて純損失を計上すると見込んでおり、決して楽観視できない状況が続くと見ている。これから航空業界にとって生き残りを懸けた本当に厳しい冬がやってくるが、この見通しを維持し、さらには上方修正できるようになるためには、de Juniac事務局長が呼び掛けるように、政府の追加支援と一刻も早いワクチンの配布が望まれる。

参考文献

- 1) <https://www.iata.org/en/pressroom/pr/2020-11-24-01/>
- 2) <https://www.iata.org/en/iata-repository/publications/economic-reports/airline-industry-economic-performance-november-2020---presentation/>